

堤防決壊を想定した危機管理演習を実施しました

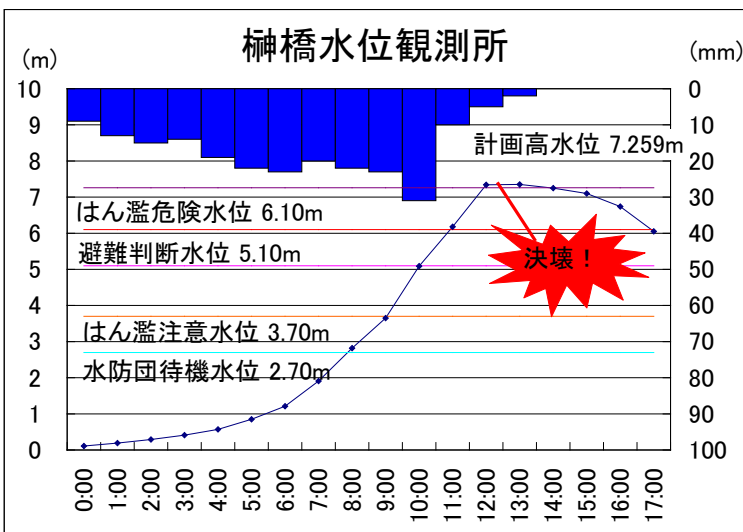
これからの台風シーズンに備えるために、常陸河川国道事務所と常陸太田市と合同で、久慈川での出水を想定した危機管理演習を行いました。

演習はセミ・ロールプレイング方式(ミッション付与型)で行いました。この方式は、事前に作成したシナリオに基づき、演習前に流れを予習した上で、途中で追加される突発的なミッションに対応しながら実施するものです。

この演習では、想定した被災箇所や出張所への応援者の派遣、排水ポンプ車の出動、決壊箇所の復旧工法の検討、市が住民への避難指示を行うために参考とする洪水予報の発令、トップ同士で情報を共有するため、常陸河川国道事務所長と常陸太田市長が電話で直接情報交換するホットラインなどを実施しました。

演習中は短時間の間に予想以上に多くの情報が錯綜したこともあり、事前に予習をしていたにも関わらず、適切な情報共有が図れずに混乱するような場面もありましたが、徐々に声を出したり、ホワイトボードを活用したりといった情報共有が自然とできるようになりました。後半には突発的なミッションにもなんとか対応し、無事演習を終了することができました。

今後も、危機管理演習や水防訓練などを継続的に行うことで、職員の危機管理対処能力の向上を図ってまいります。



本演習での観測所の雨量と水位の変化



演習中の様子

本演習の課題と反省点

演習後に実施した意見交換会では、以下の指摘がありました。これらの指摘を踏まえ、実際の出水対応では万全な対応ができるように備えていきます。

- ・情報が錯綜する中で、どの情報を誰に渡すかが決まっていなかったために混乱することがあった。
- ・ホワイトボードの活用方法をより工夫すべき。
- ・決裁を取る前にまず大声で情報共有することが重要。
- ・現地に移動した人などの移動状況の把握が不十分。
- ・長期間に及ぶ場合は、人員の交代や食事なども考慮する必要がある。
- ・自分の作業だけでなく、全体の動きをよく把握した上で行動するよう一人一人が心がけるようにすべき。

久慈川危機管理演習の概要

■常陸河川国道事務所による洪水対応

・常陸河川国道事務所は、水位・雨量データや水位予測情報の提供、排水ポンプ車等の活用、水防警報、洪水予報の発表等により、水防管理団体(市町村)の水防活動に大きく貢献しています。

■今回の演習の目的

・久慈川における大規模な洪水災害を想定した危機管理演習を行うことで、実際の洪水対応に備え、各人・各組織の危機管理対応能力の向上を図る。
・洪水時の気象・水位状況や被害状況を的確に伝えることにより、水防管理団体(市町村)の水防活動や地域住民の避難行動へと適切につなげていくなど、「人命第一」を目標に、迅速・的確な住民避難が可能となるよう、常陸太田市と常陸河川国道事務所との連携強化を図る。

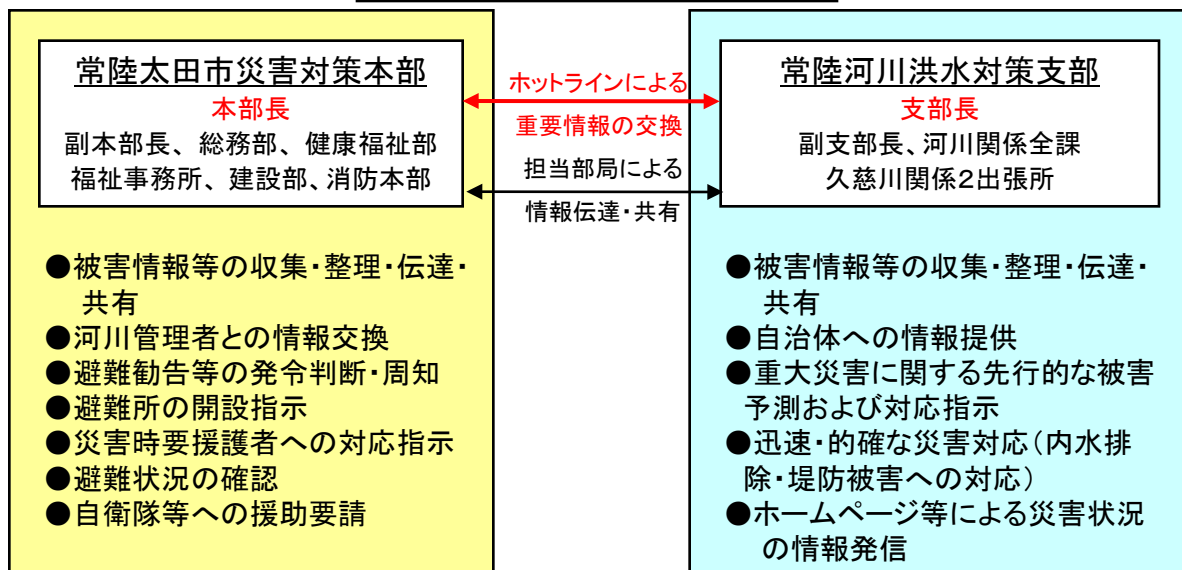
■今回の演習の特徴

- ・あらかじめ演習シナリオを公開し、それに対して必要な具体的な対応行動を事前に準備・作成。
- ・演習時には、予め定めた演習シナリオには無い突発的な状況付与(ミッション付与)を行う。
- ・対応行動を自ら考え、演習にて検証することで、確実な危機管理対応能力向上を図る。

■演習の想定

- ・昭和61年8月洪水と同程度の出水(台風10号)。
- ・久慈川左岸10.5k(常陸太田市下河合町)にて決壊。久慈川と里川の間が浸水。
- ・常陸太田市内に1箇所の内水被害他。

■演習編成と演習主要項目



■演習スケジュール: 2010年5月27日(木) 9:00~15:00

■演習会場

常陸河川国道事務所3F災害対策室
久慈川上流出張所 久慈川下流出張所
常陸太田市役所3F大会議室

■問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局
常陸河川国道事務所調査第一課
電話 029-240-4069